
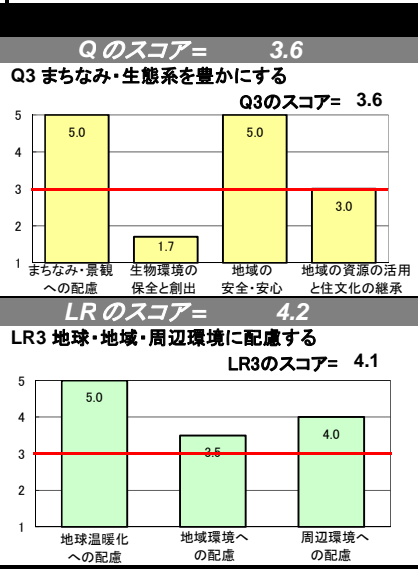
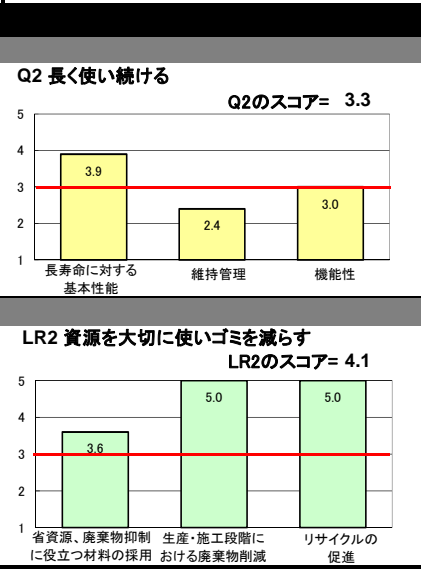
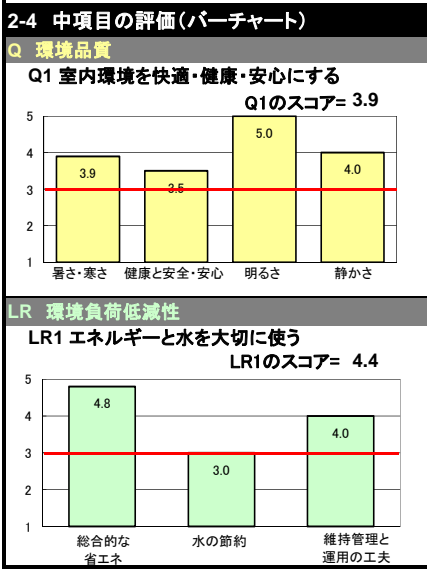
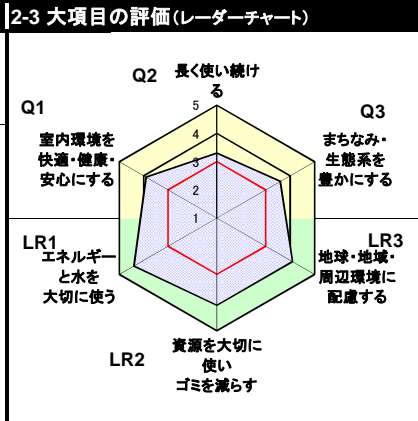
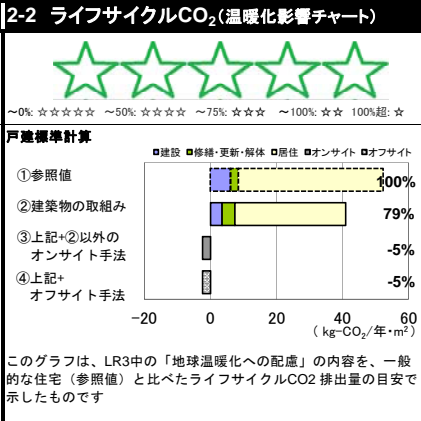
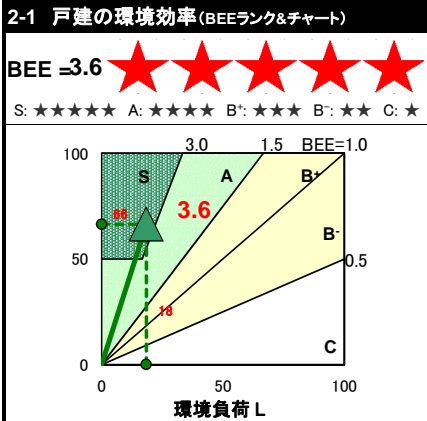




■使用評価マニュアル: CASBEE-戸建 (新築) 2021年SDGs対応版

■使用評価ソフト: CASBEE横浜[戸建]2022年版V.1

1-1 建物概要			1-2 外観		
建物名称	アイマーレ十日市場A棟		仕様等の確定状況	建物の仕様	確定
竣工年月	2024年7月 予定			持ち込み家電等	確定
建設地	横浜市緑区十日市場町			外構の仕様	一部確定
用途地域	第1種中高層住居専用地域		<備考> ●外構は、一部の植栽が未定の段階での評価 ●建売住宅のため、世帯人数は想定での評価		
省エネルギー地域区分	6 地域				
構造・構法	木造軸組工法		評価の実施日	2024年3月13日	
階数	2		作成者	伊藤 理絵	
敷地面積	106 m ²	確定	確認日		
建築面積	57 m ²	確定	確認者		
延床面積	105 m ²	確定			
世帯人数	4	仮			



Q1 室内環境を快適・健康・安心にする

●断熱性能も維持しながら適切な開口部計画により、自然光による採光を確保しております。●特にリビングは、南面に積極的に開口部を設け、効果的に明るさを確保する計画としました。●また、風通し計画については、開口部からの自然風を確保し、心地よい室内環境に配慮しています。●IFレベルの引越しい窓はシャッター付きとすることで、防犯性に配慮した計画としています。●温水式床暖房をリビングダイニングへ採用し、快適性の高い室内環境となるよう配慮しています。

Q2 長く使い続ける

●床下換気、外壁通気、連続的な断熱区画、防湿シートにより、耐久性の高い躯体としています。●住宅設備にはシステムキッチンやユニットバスを採用することで、定期点検や交換・手入れを行いやすい計画とし、設備を長持ちさせる配慮をしています。●地盤調査に基づき、安全な基礎形状を選択しています。

LR1 エネルギーと水を大切に使う

●断熱性能等は最高ランクであるFを確保し、建物内から熱が逃げにくい住宅としています。●また、[ZEH] (ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス) とし、生活で消費するエネルギーよりも生み出すエネルギーが上回る、省エネ性の高い住宅となっています。●断熱性能には太陽電池パネルを設置することで、創エネルギーの見える住宅としています。●給湯設備には省エネ性の高いエコワンを採用し、環境負荷低減を行っています。

Q3 まちなみ・生態系を豊かにする

●外壁はホワイト系色とし、建物の色彩には周囲との調和性を持たせています。●また、隣地間隙のないオープン外構、多様な植栽計画により景観性の配慮を行っています。

LR2 資源を大切に使いゴミを減らす

●基礎工事の型枠には、繰返し使用できる鋼製型枠を使用し、廃材削減を図っております。●構造材にはプレキャスト材を使用し、現場加工により発生する材料の削減を図っております。

LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する

●従前の地形を改変しないことで既存の自然環境の保全に貢献しています。●また、植樹による緑化や舗装面積の抑制などにより、周辺の温熱環境改善に配慮しています。●隣棟間にはフェンスをつくらない計画とし、災害時の避難のし易さに配慮しています。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (環境品質), L: Load (環境負荷), LR: Load Reduction (環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (環境効率)

■CASBEE全体の表記ルールに従えば、CASBEE-戸建(新築)の場合、BEE_{戸建}、Q₁、LR₁などとすべきであるが、本シート上では簡略化のためHを省略した

■「ライフサイクルCO₂」とは住宅の部材生産・建設から居住、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量であり、ここでは住宅の寿命年数と延床面積で除した値を示す

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q₁、Q₂、LR₁中の住宅の寿命、省エネルギーなどの項目の評価結果から自動的に算出される(「戸建標準計算」の場合)

■ライフサイクルCO₂の算定条件等については、マニュアルおよび「CO₂計算シート」を参照されたい



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。

建物名称 アイマーレ十日市場A棟

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving

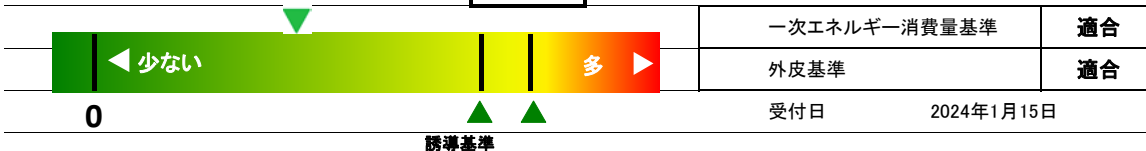
重点項目への取組(5点満点)

【省エネルギー性能】

5

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)

この建物の設計一次エネルギー消費量 54 %削減



■エネルギーを大切に使う (①建物の工夫 ②設備の性能 ③維持管理と運用)

(建物の工夫)南面に積極的に開口部を設けることで、効率的に明るさを確保する計画とした。

(設備)南面の屋根に太陽光発電パネルを導入し、創エネのできる住宅とした。

(設備)給湯器には、省エネ性の高いエコワンを採用することで、電気代・ガス代の削減に配慮した。

(維持管理と運用)システムキッチンやUBを採用することで、定期点検や交換・手入れを行いやすい計画とした。

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community

重点項目への取組(5点満点)

【健康・安心】

5

■室内環境対策 (④暑さ・寒さ)

◆断熱等性能等級 等級4を超える (相当)

断熱等級は最高等級である7を確保し、快適性と省エネ性の高い住宅とした。

■室内環境を快適・健康・安心にする (⑤健康と安全・安心)

温水式床暖房をリビングダイニングへ採用し、乾燥しやすく、快適性の高い室内環境となるよう配慮した。

1Fレベルの引違い窓はシャッター付きとすることで、防犯性に配慮した計画とした。

■その他の対策 (⑥自然材料・通風の工夫など)

◆工夫の有無 あり

各部屋には1箇所以上の開閉可能な開口部を設け、通風により自然換気のできる計画とした。

防災への配慮 (R) Resilience

重点項目への取組(5点満点)

【防災】

4

■災害に備える (⑦災害に備える ⑧長寿命に対する基本性能 ⑨地域の安全・安心)

(災害対策)停電時には、日中の間、太陽光発電により発電した電気が利用できる計画とした。

(長寿命への性能)床下換気、外壁通気工法、連続的な断熱区画、防湿シートの採用により、耐久性の高い躯体計画とした。

(地域の安全・安心)隣棟間にはフェンスや塀をつくらない計画とし、防犯性や避難のし易さに配慮した。

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape

重点項目への取組(5点満点)

【地域・まちづくり】

3

■まちなみ・生態系を豊かにする (⑩まちなみ・景観への配慮 ⑪生物環境の創出)

隣地間には塀のないオープン外構計画とし、多様な植栽計画により景観性の配慮を行った。

外壁はホワイト系色とし、建物の色彩に周囲との調和性を持たせる計画とした。

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)



太陽光利用

エネルギーマネジメントシステム導入

その他:給湯器に省エネ性の高いエコワンを採用

CASBEE 横浜 [戸建] | 評価結果 | 5-112



CASBEE横浜[戸建] (2022年版)
アイマーレ十日市場A棟

バージョン : CASBEE横浜[戸建]2022年版v1.1

スコアシート				
配慮項目	重点項目	評価点	重み係数	全体
QH すまいの環境品質		-	-	3.6
QH1 室内環境を快適・健康・安心にする		-	0.45	3.9
1 暑さ・寒さ		3.9	0.50	3.9
1.1 基本性能		4.8	0.50	-
1 断熱等性能の確保	健康・安心	5.0	0.80	-
2 日射の調整機能	健康・安心	4.0	0.20	-
1.2 夏の暑さを防ぐ		3.0	0.25	-
1 風を取り込み、熱気を逃がす		5.0	0.50	-
2 適切な冷房計画		1.0	0.50	-
1.3 冬の寒さを防ぐ		3.0	0.25	-
1 適切な暖房計画		3.0	1.00	-
2 健康と安全・安心		3.5	0.30	3.5
2.1 化学汚染物質の対策	健康・安心	5.0	0.25	-
2.2 適切な換気計画	健康・安心	3.0	0.25	-
2.3 犯罪に備える	健康・安心	3.0	0.25	-
2.4 災害に備える	防災	3.0	0.25	-
3 明るさ		5.0	0.10	5.0
3.1 屋光の利用		5.0	1.00	-
4 静かさ		4.0	0.10	4.0
QH2 長く使い続ける		-	0.30	3.3
1 長寿命に対する基本性能		3.9	0.50	3.9
1.1 躯体	防災	5.0	0.30	-
1.2 外壁材		4.0	0.10	-
1.3 屋根材、陸屋根		4.0	0.10	-
1.4 自然災害に耐える	防災	3.0	0.30	-
1.5 火災に備える		3.7	0.20	-
1 火災に耐える構造		3.0	0.65	-
2 火災の早期感知		5.0	0.35	-
2 維持管理		2.4	0.25	2.4
2.1 維持管理のしやすさ		1.0	0.65	-
2.2 維持管理の計画・体制		5.0	0.35	-
3 機能性		3.0	0.25	3.0
3.1 広さと間取り		4.0	0.50	-
3.2 バリアフリー対応		2.0	0.50	-
QH3 まちなみ・生態系を豊かにする		-	0.25	3.6
1 まちなみ・景観への配慮	地域・まちづくり	5.0	0.30	5.0
2 生物環境の創出		1.7	0.30	1.7
2.1 敷地内の緑化	地域・まちづくり	1.0	0.65	-
2.2 生物の生息環境の確保	地域・まちづくり	3.0	0.35	-
3 地域の安全・安心	防災	5.0	0.20	5.0
4 地域の資源の活用と住文化の継承		3.0	0.20	3.0
LRH すまいの環境負荷低減性		-	-	4.2
LRH1 エネルギーと水を大切に使う		-	0.35	4.4
1 総合的な省エネ		4.8	0.75	4.8
1.1 躯体と設備による省エネ	省エネルギー性能	5.0	0.90	-
1.2 家電・厨房機器による省エネ	省エネルギー性能	3.0	0.10	-
2 水の節約		3.0	0.15	3.0
2.1 節水型設備		3.0	0.75	-
2.2 雨水の利用		3.0	0.25	-
3 維持管理と運用の工夫		4.0	0.10	4.0
3.1 住まい方の提示	省エネルギー性能	4.0	0.50	-
3.2 エネルギーの管理と制御	省エネルギー性能	4.0	0.50	-
LRH2 資源を大切に使いゴミを減らす		-	0.35	4.1
1 省資源、廃棄物抑制に役立つ材料の採用		3.6	0.60	3.6
1.1 構造躯体		3.0	0.30	-
1 木質系住宅		3.0	1.00	-
2 鉄骨系住宅		5.0	-	-
3 コンクリート系住宅		3.0	-	-
1.2 地盤補強材・地業・基礎		3.0	0.20	-
1.3 外装材		5.0	0.20	-
1.4 内装材		3.0	0.20	-
1.5 外構材		5.0	0.10	-
2 生産・施工段階における廃棄物削減		5.0	0.30	5.0
2.1 生産段階(構造躯体用部材)		5.0	0.33	-
2.2 生産段階(構造躯体用以外の部材)		5.0	0.33	-
2.3 施工段階		5.0	0.33	-
3 リサイクルの促進		5.0	0.10	5.0
3.1 使用材料の情報提供		5.0	1.00	-
LRH3 地球・地域・周辺環境に配慮する		-	0.30	4.1
1 地球温暖化への配慮		5.0	0.33	5.0
2 地域環境への配慮		3.5	0.33	3.5
2.1 地域インフラの負荷抑制		3.0	0.50	-
2.2 既存の自然環境の保全		4.0	0.50	-
3 周辺環境への配慮		4.0	0.33	4.0
3.1 騒音・振動・排気・排熱の低減		3.0	0.50	-
3.2 周辺温熱環境の改善		5.0	0.50	-